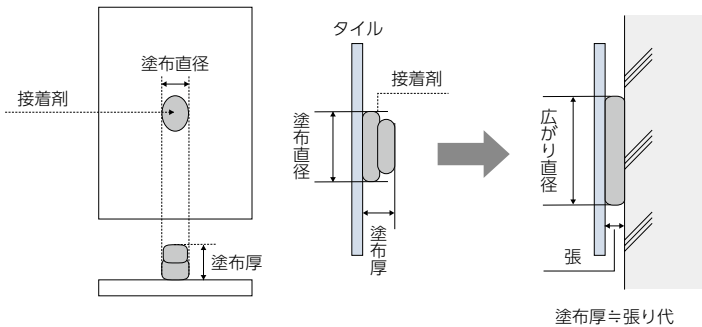




- 塗布直径および塗布厚は、張り代により設定する。また、タイル1枚当たりの接着面積も考慮して設定するとよい。塗布厚を高くしすぎるとタイル張り付け時にタイルと下地の間で接着剤に垂れが生じる可能性があるため注意が必須である。
- 下地に過度な凹凸がないかをタイル張り付け前に確認しなければならないが、下地の面精度によって接着剤の広がり直径が変化することを考慮し、余裕をもった塗布直径と塗布厚を設定するとよい。
- 塗布に用いる専用工具やシーリングガンなどの吐出口径や接着剤を押し出す力により塗布厚などが変化することはほとんどない。接着剤の種類によって押し出す力に強弱はあるものの、設定した塗布直径と塗布厚を満足するように注意深く塗布することが肝要である。

広がり直径が70mm程度となる目安の塗布直径と塗布厚

張り代	塗布幅	塗布厚
5 mm	50 mm	10 mm
10 mm	50 mm	20 mm
15 mm	50 mm	30 mm
20 mm	50 mm	40 mm

※塗布厚を張り代の2倍とし、広がり幅に余裕をみて70mmとすると、塗布直径は50mmが目安となる。

◎材料

- 対象とするタイルは、300 角を超え600×1200mm程度までの大きさで、厚さ8mm以上15mm以下、裏面に補強加工が施されていないものとする。実績としては少ないが900角程度の大きさのものも適用対象とする。
- タイルの形状・寸法および品質は、JIS A 5209:2020 (セラミックタイル) に適合するものとする。ただし、製作寸法が605 mmを超えるものについては、製作寸法に対する許容差は605mm以下の規格を適用する。
- 引き金物のタイルへの固定は、タイル質量を十分に支えられるものとする。
- 3mx1mt3～6mmのいわゆるTHINタイルは適用対象外とする。

◎接着剤

- 外装接着剤張り用接着剤は硬化までに時間を要することが懸念されるため、混合等の不具合に十分注意を払った上で、二液反応硬化型接着剤も使用可能とする。

外装タイル張り用有機系接着剤の主成分による区分

種類	備考
ウレタン樹脂系	一液反応硬化形 ウレタン樹脂を主成分とした一液硬化形のもの
	二液反応硬化形 ウレタン樹脂を主成分とした二液混合硬化形のもの
変成シリコン樹脂系	一液反応硬化形 変成シリコン樹脂を主成分とした一液硬化形のもの
	二液反応硬化形 変成シリコン樹脂を主成分とした二液混合硬化形のもの

◎受け金具

- 受け金物の材質は、特記による。特記のない場合は、ステンレス鋼SUS 304 0.6mmとする。
- 受け金物の形状、寸法および個数は、特記による。
- 受け金物を下地に固定するビスは、特記による。特記のない場合は、ステンレス鋼SUS 304とする。
- 受け金具の出幅はタイルへの掛かり代を5mmとして、接着剤の張り代を考慮して決定する。

